

新教育課程のスタートにあたって

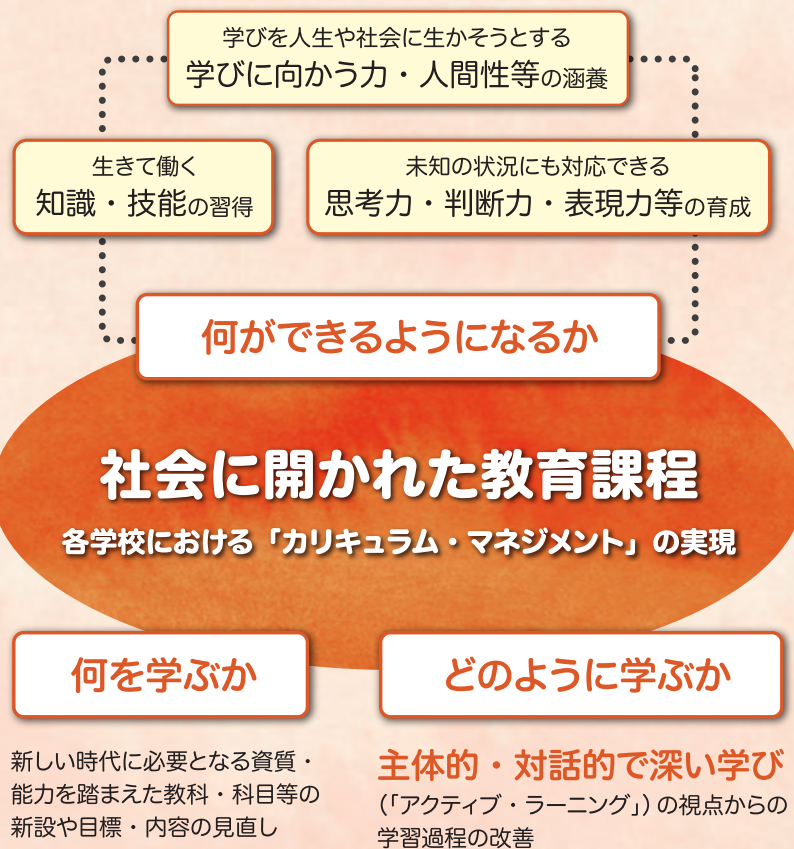
～未知の状況にも対応できるように～

はじめに

2020年4月の新教育課程完全実施まで、あと1年を切りました。

中央教育審議会答申*で引用された「子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就く」との予測に象徴されるように、私たちは、予測困難な時代に生きています。このような時代に向けて、今回の学習指導要領改訂では、右図のような改善の方向性が挙げられました。

*文部科学省、2016年



主体的・対話的で深い学び

今回、すべての教科等の授業改善に、「主体的・対話的で深い学び」の視点が求められています。

特に「深い学び」については、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解する、問題を見いだして解決策を考えるなどが、具体的に示されました。

これらの視点から優れた授業改善が実現し、確かな資質・能力を育成することができます。

カリキュラム・マネジメント

新しい時代に必要な資質・能力を育むために、子どもたちの姿に基づくカリキュラム編成や、教科横断的な視点などの工夫が、各学校に求められています。

●スタートカリキュラム

小学校生活の始まりに、多くの学校で生活科を核として実施が進むカリキュラムです。今回の新教育課程では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明示され、幼児期の遊びを小学校での学びにつなげることがさらに重視されています。



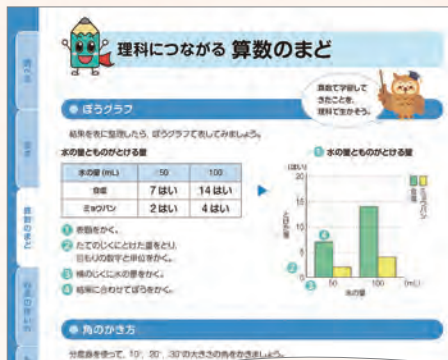
▲スタートカリキュラム（生活上・巻頭）



▲スタートカリキュラム（算数 1年・巻頭）

●教科間連携

小学校入学当初だけでなく、すべての学年で、各教科等の内容を相互に関連付けて組み立てることで、より効果的な学びにつながっていきます。



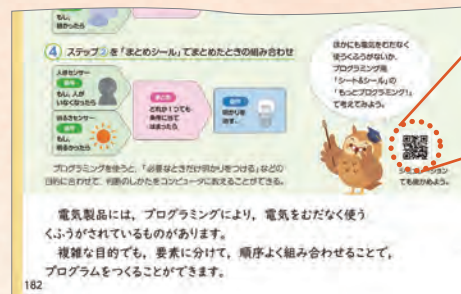
▲教科間連携（理科 5年・p180）

プログラミング的思考

「小学校におけるプログラミング教育必修化」も関心の高いトピックです。小学校段階では「身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くことを重視」することが示され、具体的な単元等は、算数や理科で例示されました。



▲Pマーク
プログラミングの思考が
育める活動のマーク
(算数 5年・p236)



◀シミュレーション
でも確かめよう
(理科 6年・p182)

●実際の活動を通して プログラミング的思考を育成

巻末の切り取り教具（算数）や「プログラミング用シート＆シール」（理科）を使ったり、QRコードからアクセスできるデジタルコンテンツを用いたりすることで、より体験的な学習を展開できます。